

第 18 回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）

ソフトボール競技実施要領

1 競技規則

平成 30 年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定）によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 チーム

- (1) チームの構成は、監督 1 名、コーチ 2 名以内および選手 15 名以内（男女は問わない。）とする。
- (2) 監督およびコーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手の人数は、選手を兼ねる監督およびコーチを含め 15 名以内とする。

3 競技方法

- (1) 試合は、トーナメント方式とし、3 位決定戦を行う。
- (2) 決勝以外の試合は 5 回までとし、試合開始後 1 時間を経過した後は、新しいイニングに入らない。
- (3) 同点の場合は、タイブレーカーにより行う。ただし、延長は 2 回を限度とし、それでも同点の場合は、最終出場選手 9 名の抽選によって勝敗を決定する。
- (4) 決勝戦は 5 回とし、同点の場合は勝敗が決するまで行う。
- (5) 3 回終了以降 10 点以上の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。また、降雨等の事情により試合の継続が不可能と判断された場合は、3 回以上の回の終了をもってコールドゲームとする。（決勝戦を含む。）
- (6) ファーストピッチにより行う。
- (7) 投球距離は、13.11m とする。
- (8) パスボール、振り逃げ、スクイズバントは適用しない。
- (9) 盗塁が行われた時、該当する走者はアウトとする。
- (10) 走塁に関わる遅延行為があった場合は、審判によりチーム全員に対して注意（指導）を行う。2 度目以降は該当者をアウトとして処理する。
ア ピッチャーが投球したボールが、ホームベースを通過した時点でボールデットとし、キャッチャーからの牽制、暴投による進塁など、その後のプレーは成立しない。
イ ボールデット後のプレー再開の判断は、捕手が投手に返球し、セットを始めた時とする。その時点で走者が帰塁していない場合は、遅延行為とする。
- (11) 指名選手（DP）および再出場（リエントリー）を採用する。
- (12) 試合球は、公益財団法人日本ソフトボール協会検定ゴム製 3 号球とし、主催者が用意する。

4 服装等

- (1) 同一チームの監督、コーチおよび選手は、同色・同意匠ユニフォームを着用しなければならない。また、男子は同じ帽子を着用しなければならない。
- (2) ユニフォームナンバーは、背中と胸下につけなければならない。監督は 30 番、コーチは 31 番と 32 番、主将は 10 番とし、他の選手は 1 番から 99 番の番号とする。また、ユニフォームの左袖（左肩から 10cm 程度）に都道府県・指定都市名を表示すること。

- (3) 打者、打者走者、走者、次打者および1・3塁のベースコーチは、両耳あてのある同色のヘルメットを着用する。また、捕手は、スロートガード付きマスク、捕手用ヘルメット、ボディプロテクターおよび膝当て付きレガースを着用する。
- (4) 金属製スパイクの使用は禁止する。

5 組合せ

組合せは、平成30年8月に開催するプログラム編成会議において、主催者が関係者立会いのもとに代理抽選の上、決定する。

6 打順表等

- (1) 打順表は、試合開始時刻30分前までに5部作成し、競技会場の競技本部へ提出する。なお、打順表は監督会議において競技本部から配布する。
- (2) 攻守順の決定は、打順表の提出時に審判員立会いの下、球審がコインのトスによって決定する。

7 開始式・表彰式

開始式および表彰式は競技会場で行う。

8 その他

- (1) 平成30年10月12日（金）に監督会議を行う。
なお、監督会議の時間および場所については別途通知する。
- (2) 監督会議では、あらかじめ主催者と協議した事項について、大会申し合わせ事項を設けることができる。
- (3) ベンチは、組合せ表の番号が若いチームを1塁側とする。
- (4) ベンチ内へは、監督、コーチ、選手以外は入ることができない。
- (5) 競技場内へは、主催者の許可を受けた者以外は立ち入ることができない。
- (6) 練習場所については、主催者からの指示に従うものとする。
- (7) 練習球は、各チームが用意する。
- (8) 荒天時他不測の事態が生じた場合の取扱いは、主催者において別途決定する。